

<目次>

粉乳情報	今後の期待と不安要素	… 2-3 頁
バター情報	軟調推移	… 3-4 頁
カゼイン情報	相場軟調に推移	… 4-5 頁
チーズ情報	アイルランドに JV モザレラ工場新設	… 5-6 頁
ホエイ情報	上昇傾向続く	… 6 頁
乳糖情報	堅調	… 7 頁
国内情報	全国生乳生産量 連続増加も猛暑の影響も	… 8-9 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
オセアニア情報	Bega 社が SDA 社(旧 MGC 社)Koroit 工場を買収	… 10-11 頁
欧州情報	雨不足深刻化	… 12 頁
米国駐在員情報	米中貿易摩擦、乳製品の行き場に懸念材料	… 13-14 頁
出典		… 15 頁

<粉乳情報>

- 今後の期待と不安要素 -

- 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は堅調に推移していたが、今月に入り、ほぼ横ばいに推移している。7月17日に行われた政府介入在庫の放出入札では2万7,768トンの応札があり、その内2,408トンが落札された。未だ在庫は約27万トン残っており、余剰感がある状況。一方で、欧州では、既に生乳生産量のピークシーズンは過ぎているものの、5月下旬からの厳しい暑さと雨不足に直面している。今後の生乳生産量に影響が出るとも予想されており、脱脂粉乳相場にも影響が出る事が懸念される。

欧州産全粉乳は、緩やかに相場が下がったものの、依然としてオセアニア産より価格が高く、競争力に欠ける。引き続き欧州国内でのバター、クリーム需要が強く、全粉乳に割当てられる生乳の量が限られている模様。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳相場は大きな動きは見受けられなかった。欧州産や米国産と比較すると、価格は高く競争力に欠ける状態が続いている。

一方で、全粉乳相場は、引き続き欧州産に比べ競争力はある。加えて、新シーズン(2018年6月、7月～)からの酪農家への乳価は昨シーズンを上回る価格設定となっており、酪農家の生産意欲も高まっており、今後の供給に期待が出来る。

最新のGDTの結果は下記の通り。

GDT結果(2018年7月17日開催、同年7月3日比較)

脱脂粉乳: USD 1,959/MT FAS(船側渡し価格)、+2.4%

全粉乳 : USD 2,973/MT FAS(船側渡し価格)、+2.3%

- 米国 -

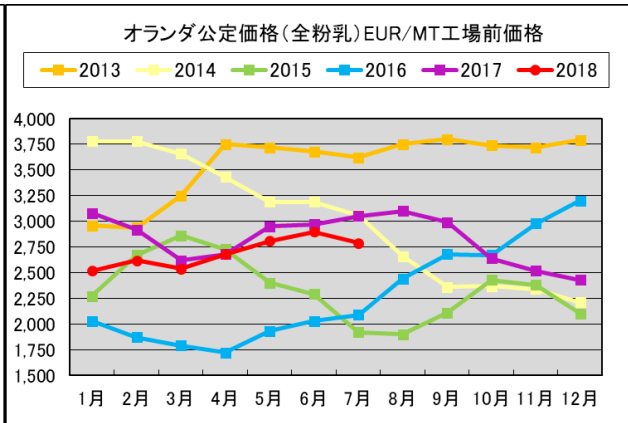
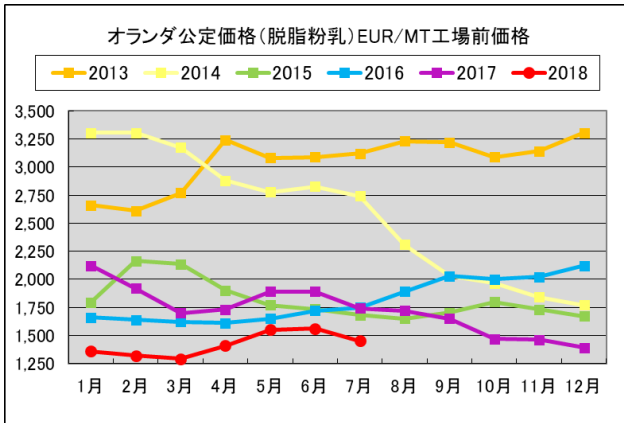
米国のNDM(*)の価格は前月から大きな動きはなく、ほぼ横ばいとなっている。オセアニア、欧州と比べ価格優位性がある状況。米国では天候にも恵まれ、生乳生産量が引き続き好調、2018年6月は昨年同月比で1.3%増、また6月末時点で、53週連続で昨年同週比増産となっている。

*NDM: Non Fat Dry Milk(たんぱく未調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

脱脂粉乳相場に関しては、欧州の政府介入在庫、加えて好調と予想されるオセアニア生乳生産量に支えられ、今後横ばいもしくは若干の弱含みに推移すると予想する。但し、雨不足により今後、欧州の乳量が著しく落ち込む事があれば、脱脂粉乳相場にも影響が出てくると懸念される。また、6月4日にメキシコが発表した米国に対する報復関税リストには、チーズが含まれている。脱脂粉乳への影響は限定的であると考えられるが、メキシコはチーズの固形分代替固形分補填として脱脂粉乳の輸入量を増やす可能性もあり、今後の動向には注視する必要がある。

全粉乳に関しては、中国からの需要次第の部分もあるが、引き続き強い脂肪原料の需要に支えられ、横ばいもしくは若干の強含みに推移すると思われる。今後のクリスマス需要に対し、欧州の生乳生産量に不安がある中、好調と予想されるオセアニアの生乳生産量がどこまで伸びるかが、一つのポイントになるだろう。



(現在の粉乳取引価格)

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 2,000 – 2,200/MT CFR ASIAN PORT

欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,500 – 3,700/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 2,150 – 2,350/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,300 – 3,500/MT CFR ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,950 – 2,100/MT CFR ASIAN PORT

<勝見>

<バター情報>

- 乳脂肪相場 おとなしい -

- 欧州 -

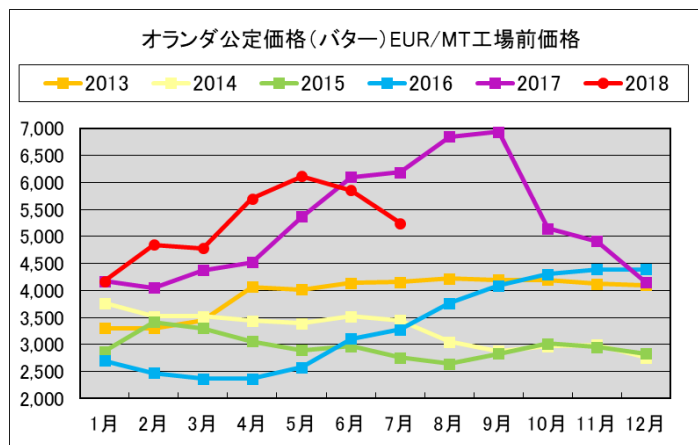
欧州の乳脂肪相場は他産地の価格と比較すると依然高いレベルではあるものの、これまでと比べると軟調推移と言える。

欧州の2018年1~5月のバター輸出量は7万8,000トンとなっており、2017年同時期比較4.4%減少。バター価格が弱気に推移している為、チーズ生産を優先する傾向になっており、2018年のチーズ生産量は、昨年対比2%増加すると予想する関係者もいる。バターの生産量は昨年を下回っており、現在は主に国内需要向けとして製造されている。

欧州ではここ2ヶ月以上纏まった雨が降って

おらず、牧草及び飼料穀物の発育に悪影響が出ている。雨不足により、トウモロコシ、大豆、小麦等の収穫量が減り、年末にかけて濃厚飼料価格が高騰する可能性があるとの予想が出ている。干ばつが影響し、フランス、オランダ、アイルランド、ドイツの生乳生産量は予想されていたレベルを下回っている。

一時期に比べると乳脂肪需要は落ち着いてきている為、短期的には引き続き軟調推移する可能性が高いが、現在の欧州の干ばつによる飼料コストへの影響や今後増加してくるクリスマス需要を考慮すると、年末にかけて再度上昇に転じる可能性もあると考える。



- オセアニア -

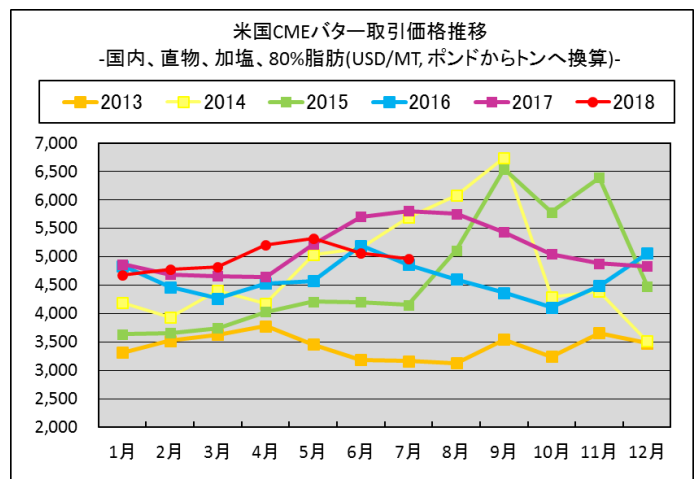
7月のGDTオークションの結果はバター、AMFともに値下げとなっている。7月17日のバター平均落札価格はUSD4,953/MT FAS(船側渡し)となり、6月19日の結果(USD5,390/MT FAS)と比較すると8.1%の値下げとなっている。AMFも同様に、7月17日の平均落札価格はUSD5,629/MT FASとなり、6月19日の結果(USD5,937/MT FAS)と比較すると5.2%の値下げとなっている。

製造者側の在庫は潤沢ではないものの、各需要者は必要な数量の大部分を手当てしている状況で、需要は落ち着いており、需給のバランスは取れている状況である。オセアニアでは今後季節的に生乳生産量の増加が見込まれる為、バターの供給余力も出てくると考えられる。ニュージーランドの2018年1~5月のバター輸出量は昨年同時期比8.7%増加している。一方豪州の2018年1~5月のバター輸出量は昨年同時期比7.7%減少している。

- 米国 -

米国では一般的に6月まで国内のバター在庫が積み増され、7月以降で減少していくが、今年は生乳生産量が好調に推移している為、7月も在庫量は増えている。現在、米国のチーズ価格が下落している為、バター/脱脂粉乳の生産が優先されている模様。

国内のバター在庫が潤沢であり、生乳生産量も好調に推移している事を考えると、しばらくは価格が上昇する要因は考えにくく、しばらくは横ばい、または弱含みにて推移すると考える。



2018年6月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.16)

EU産バター価格	USD7,000~USD7,500/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,600~USD6,100/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,800~USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,600~USD6,100/MT CFR ASIAN PORTS

<林>

<カゼイン情報>

- 相場軟調に推移 -

カゼイン相場は横ばい、やや軟調に推移している。

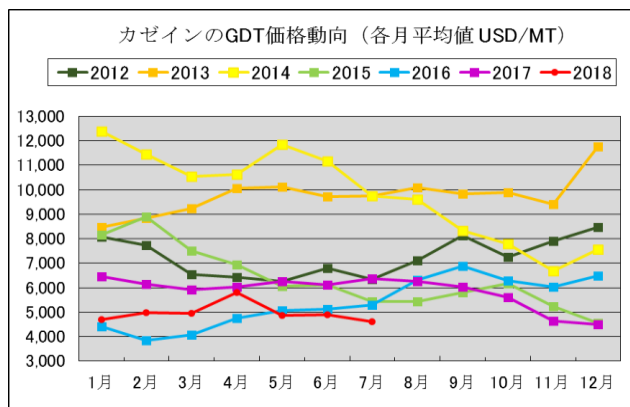
主要生産国であるEUでは夏休みシーズンに入ったことや、需要者サイドで十分な脱脂粉乳在庫を確保している事などから、同商品の引き合いは少なくなっており、脱脂乳はカゼイン生産に向けられ、生産は比較的安定している。一方、ニュージーランド(NZ)ではオフシーズンの為、限られた生産量しか無い。

需要面については依然続き落ち着きをみせており、7月2週目GDTオークションはUSD4,602/MT FASと、今年2月以降では最安値となる下落を見せた。

ここ数ヶ月に渡りEUでは十分な雨が降っておらず、気温も例年より高く、この状態が続くと、生乳生産量が落ち込み、カゼイン生産も減少する可能性が出てくる。一方で、主要生産国のNZでは好天が続いて牧草が順調に伸びているため、ピークシーズンに向けて生乳生産量増が期待される。以上の要因から、EU減、NZ増で生産バランスは保たれると思われ急激な相場変動は考えにくい。

- レネットカゼインの GDT 過去 3 カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年5月1日	USD5,177
2018年5月15日	USD4,876
2018年6月5日	USD5,015
2018年6月19日	USD4,898
2018年7月3日	USD5,089
2018年7月17日	USD4,602



< 渡辺 >

< チーズ情報 >

- Glanbia plc 社・Leprino 社、アイルランドに JV モザレラ工場を計画 -

(関連記事 欧州情報)

アイルランド拠点の Glanbia plc 社と米国拠点の Leprino 社は、アイルランド中部の Portlaoise にジョイントベンチャー(JV)で 4 万 5,000 トン規模のモザレラ工場を新設する計画を発表した。総投資額は 1 億 3,000 万ユーロ(169 億円)となるが、一部アイルランド政府から支援を受けると報じられている。設立計画が許可された場合、年内後半には建設開始となり 2020 年には新工場での製造開始を予定している。

既に両社は出資比率 G 社 51 : L 社 49 の JV で Glanbia Cheese 社(北アイルランドに 1 工場、英国に 1 工場を保有)を 1991 年に設立している。モザレラの製造キャパは合計で 9 万トンとヨーロッパ最大規模で、その多くは域内のピザチェーン等をターゲットとしている。域内だけでなく世界的なモザレラ需要の増加に対応すべく、各国でモザレラ製造キャパの拡張や新工場の計画が浮上している。

- 米中貿易摩擦によるチーズ市場への影響 -

米国が中国製品に対して 340 億米ドル(3 兆 7,740 億円)規模の追加関税措置を発動した事を受けて、7 月 6 日に中国政府は、米国への報復関税として 340 億米ドル(3 兆 7,740 億円)相当の米国製品を対象に 25%の追加関税を課す事を発表した。対象製品は、乳製品を含む 545 品目に及ぶ。中国による追加関税措置を受けて、米国の酪農家及び乳製品メーカーは、他国の市場と今後より激しい価格競争を強いられることとなる。

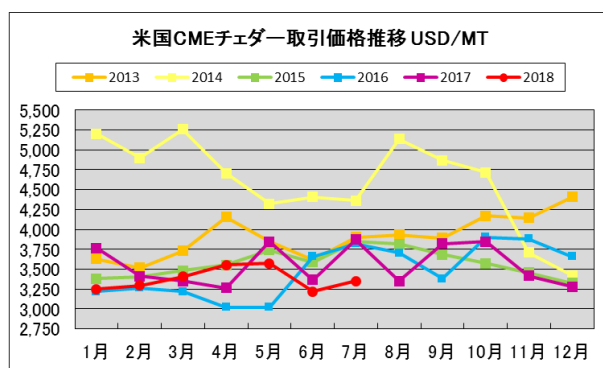
対米報復関税措置を取っているメキシコ、カナダ、中国の大部分は EU 産チーズヘシフトしている模様で、加えて米国内での需要鈍化も重なり、米国産チーズの在庫量が増加している。6 月末の米国産チーズ在庫量は約 63 万トンであり、需要期に向けての積み増し分も含まれるが、過去3年間で最も多い在庫水準となっている。

- 5 月の米国産チーズ生産量 -

米国の 5 月のチーズ生産量は前年同月比 1.4%増となる 49 万 5,314 トンであった。その内、チェダーやモンレージャックなどのアメリカンタイプは前年比 0.1%減の 20 万 986 トンであったが、チェダーは前年比 3%減の 14 万 4,145 トンでここ数か月前年を下回っている。一方でモザレラ生産量は前年比 1.7%増の 16 万 1,806 トンであった。チーズ全体の生産量自体は微増であるが、在庫量は前年比 5.9%増となり国内需要が鈍化している事を表している。

- 米国 CME 相場 -

2018年7月のCMEブロックチェダースポット相場は27日時点でUSD3,352/MT(現地工場出し価格)であった。メキシコや中国の報復関税措置を受けて大きく下落するとの大方の予想に反して、季節的な需要に下値を支えられてか、前月の水準より上昇に転じた。
(為替レート EUR=¥130.00、USD=¥111.00を使用)



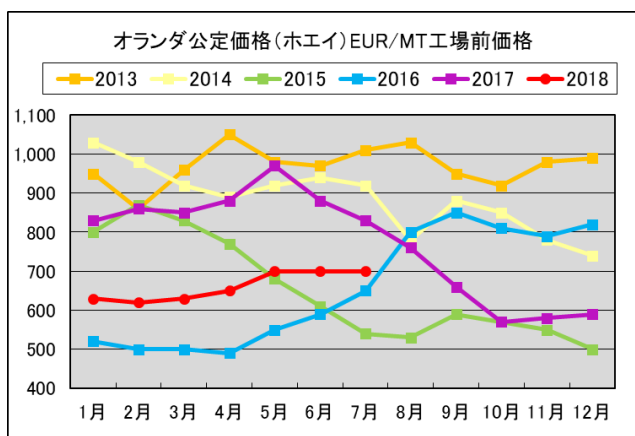
<近藤>

<ホエイ情報>

- 米国産、欧州産ともに上昇傾向続く -

- ホエイパウダー -

米国産ホエイパウダー相場は引き続き上昇している。東南アジアなど米国外からの需要が旺盛であるのに加え、米国内からの引合いも強く、相場を押し上げている。米国の一部地域では在庫に逼迫感があり、既契約を履行するのに精一杯で、スポットオフターの提示を渋る生産者も出てきている状況。米中貿易摩擦の影響で、中国サイドの追加関税発動により、米国産ホエイパウダーには25%の追加関税が課されることになったが、依然中国からの米国産ホエイパウダーに対する需要は根強く、米国からは引き続き中国向けにホエイパウダーの輸出が行われている。米国内外からの需要が強く、直近では米国産ホエイパウダーの価格が低下するような材料は乏しい状況。



欧州産ホエイパウダー相場は前月比でやや上昇しており、2018年では最高値更新となっている。休暇シーズンで欧州域内の需要は落ち着いているが、米国産ホエイパウダーの相場上昇に牽引される形で、欧州産ホエイパウダーの価格も上昇している。欧州のホエイパウダー生産は安定しており、短期的には供給面の心配はないが、今後のチーズの生産量によっては、供給がタイトになる可能性もあるので、状況注視する必要がある。

- WPC34 -

米国産 WPC-34 の相場も引き続き上昇傾向で推移している。特に育児粉乳用途の需要が強く、多くの生産者で在庫が薄くなってきている。一部の生産者では WPC-34 の在庫を適正にすべく、WPC-80 などの高たんぱく製品の生産から、WPC-34 への生産にシフトする動きも見られる。市場関係者からは、WPC-34 への需要が加熱し過ぎており、今後いつまでこの需要が続くか不透明な状況もあるので、注意が必要という声が聞こえてきている。

<帆秋>

<乳糖情報>

- 米国産、欧州産ともに堅調 -

- 欧州 -

欧州産乳糖相場は僅かに上昇した。欧州の1月から5月までの累計生乳生産量は、昨年対比1.9%増となったが、年初からの天候不順の影響により、予想していたよりも伸び悩む結果となった。チーズの生産は好調で、1月から5月までの累計生産量は昨年対比2.0%増となり、ホエイと乳糖の供給は安定している。需要面では、脱脂粉乳の1月から5月までの累計生産量が昨年対比4.5%増となっており、たんぱく調整用途での乳糖需要が好調であった。

今後は、欧州のチーズ需要が好調な為、チーズとホエイの組み合わせが優先されると考える。しかし欧州域内では、ここ最近まとまった雨が降らず牧草が枯れ始めている地域もあり、生乳生産量の落ち込みが懸念される。そのため、乳糖生産量の増加は限定的と思われる。また米国の乳糖相場が上昇していることから、欧州産の相場も緩やかに上昇すると予想する。

	2017	2018	(%)
オランダ	3,999	2,843	-29
フランス	961	480	-50
ドイツ	8,447	6,068	-28
カナダ	1,393	1,948	40
米国	23,004	21,642	-6
豪州	0	0	-
ニュージーランド	1,554	1,641	-6
その他	977	830	-15
合計	40,335	35,451	-12

- 米国 -

米国産乳糖相場は、堅調である。供給面では、生乳生産量とチーズの生産量が好調であった。しかし、高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせよりも、ホエイパウダーの生産が優先される動きが見られ、乳糖の生産量は減少した。6月の米国主要23都市における生乳生産量は昨年対比1.3%増、5月のチーズ生産量は昨年対比1.4%増(前月対比1.7%増)、乳糖生産量は昨年対比0.2%減(前月対比0.6%減)となった。需要面では、変わらず好調を維持している。特にアジア圏のユーザーから引き合いが強まっており、中には第4四半期分の引き合いを受けるメーカーもいた。米国内の乳糖在庫は相変わらずタイトな印象。船積みの前倒しを求められているメーカーもある模様。

今後は、引き続きホエイパウダーの生産が優先されることに加えて、猛暑や高い湿度の影響から一部製造ラインに問題が生じているメーカーもあることから、乳糖の生産は伸び悩むことが予想される。一方で需要面では、乳糖の秋冬商材向け需要が高まっていくことが考えられ、需要が落ち込む要因が期近には見当たらない。需給のバランス及びタイト感の強い米国内在庫を考えると、今後の米国産乳糖相場は、上昇が続くと予想する。

- 米国からの乳糖輸出量(2018年5月) -

1. 中国	43,742	トン
2. ニュージーランド	20,323	トン
3. メキシコ	19,962	トン
4. 日本	17,580	トン
5. インド	10,860	トン
6. ベトナム	8,577	トン
7. インドネシア	7,210	トン
輸出量総計	175,402	トン

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年5月) -

乳糖生産量	42,433トン	前年比0.2%減
月末在庫	49,758トン	前年比16.7%減

<柴崎>

＜国内情報＞

－ 全国生乳生産量 9ヶ月連続前年比増加 －

－ 生乳生産 －

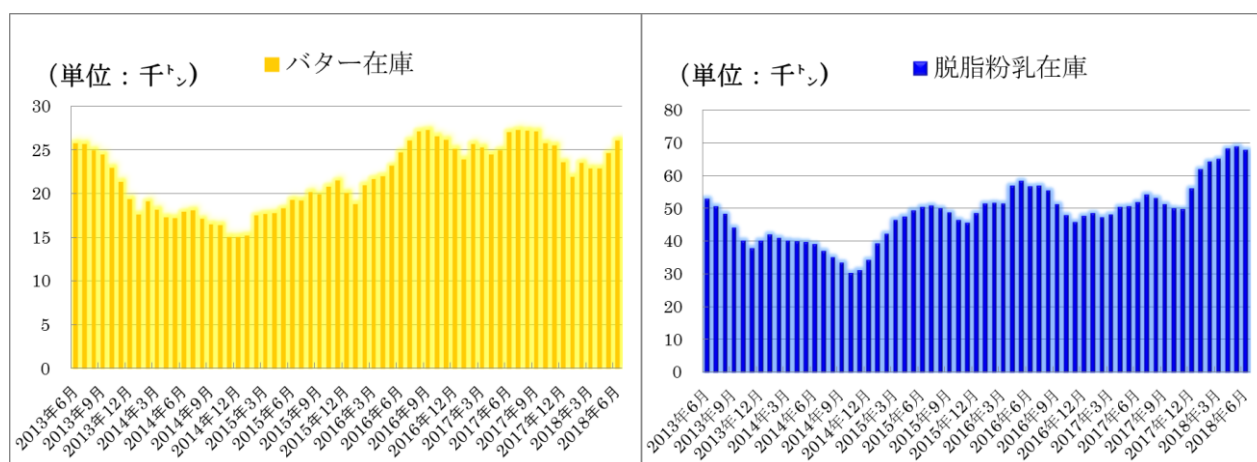
農林水産省が発表した2018年6月の全国生乳生産量は62万866トン。前年同月比1.1%増となり9ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が34万251トンで同3.7%増である一方、都府県は28万615トンで同2.0%の減少となった。牛乳の健康効果を紹介したテレビ放送の影響は一段落した模様だが、都府県の生乳生産量は連日の猛暑の影響から減産傾向にあり、生乳需給は逼迫状態。例年であれば夏休みのため学校給食牛乳がストップし、需給は一服するものだが、今年は予断を許さない状況。関東圏においては、観測史上最も早い梅雨明けにより、6月下旬から急激に気温が上昇。この暑さはこれからも続く予想されており、今後は更に生産量が減少する見通しとなろう。

－ バター －

農林水産省が発表した2018年6月のバター生産量は4,823トンで前年同月比0.6%減。在庫量は2万6,551トンで同2.8%減。農畜産業振興機構(ALIC)は、7月12日に1,000トンのSBS入札を実施。応札数量は1,915.1トンで競争倍率1.92倍、落札数量は1,000トン全量であった。売渡結果の落札平均価格は106万8,201円/トン。競争倍率が二倍近いものとなっているが、これについては年末の最需要期に向けた在庫確保の動きが本格化してきたとの見方がある。

－ 脱脂粉乳 －

農林水産省が発表した2018年6月の脱脂粉乳生産量は9,391トンで前年同月比0.6%減。在庫量は6万7,847トンで同30.4%増。2018年は1～6月の全ての月において、在庫量が前年同月比を上回る状態。2月、4月、6月と隔月で行われたALIC入札では、いずれも落札が100%を下回ったが、在庫量は依然として高い水準となっている。ALICは8月30日に6,000トンのSBS入札を実施すると発表した。在庫過多な状況から積極的な応札は行われぬのではとの見方がある。他方、連日の記録的な猛暑の影響を懸念する声から、7月の生乳生産量が大幅に減少し生乳需給に影響が出ている、とも言われていることから、8月の入札に注目する声も徐々に聞こえてきている。



生乳生産量(2018(平成30)年6月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
平成30年度	621	351	27	265	4.1
前年同月比	101.1%	101.5%	111.3%	100.5%	102%

2018(平成30)年度、バター¹の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,613	99.1%	18,791	120.3%	26,500	97.0%	4.1
第2四半期	12,900	102.4%	14,300	93.1%	28,300	104.6%	4.4
第3四半期	12,400	92.2%	20,600	75.8%	23,300	106.2%	3.6
第4四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,113	98.4%	71,191	92.3%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,103	98.3%	23,219	63.4%	66,900	124.6%	5.4
第2四半期	25,800	102.1%	41,900	116.8%	58,700	110.6%	4.7
第3四半期	27,900	92.2%	36,900	120.0%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	119,103	98.0%	137,419	92.4%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<土屋>

<主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価 ^{※1}	適用期間	直近の乳価
日本	¥96.42/リットル	2018年5月	¥93.52/kg ^{※2}
ドイツ	¥43.40/リットル	2018年5月	EUR32.38/100kg
オランダ	¥45.57/リットル	2018年5月	EUR34.00/100kg
アイルランド	¥41.66/リットル	2018年4月	EUR31.08/100kg
米国	¥39.86/リットル	2018年4月	USD15.80/100ポンド(100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥35.70~36.00/リットル	2018/19年度	AUD5.63~5.68/100kg MS(乳固形kgあたり)
NZ	¥41.14/リットル	2018/19年度	NZD7.00/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥130.00 USD=¥111.00 AUD=¥82.00 NZD=¥76.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 HP EU:European Commission HP 米国:CLAL HP 豪州:当社調べ NZ:Fonterra HP

<オセアニア情報>

- Bega 社が SDA 社(旧 MGC 社)Koroit 工場を買収 -

旧 MGC 社 Koroit 工場の売却先が、約 3 か月間の交渉の末正式に決まった。豪州乳業会社 Bega 社による 2 億 5,000 万豪ドル(205 億円)にての買収を 7 月 18 日に ASX(豪州証券取引所)が発表した。2018 年 4 月上旬にカナダ大手乳業会社が旧 MGC 社資産を買収する事を正式に発表した。ACCC(豪州公正取引委員会)が提示していた条件は、同社最大工場の Koroit 工場を他社へ売却する事であった。Victoria 州西部に位置する Koroit 工場は、同じ Saputo グループである WCB 社工場と同じエリアに位置しており、同エリアの生乳の 75%以上を Saputo グループが集乳する事になると周辺の集乳についての健全な競争が失われ、結果として酪農家へ支払われる乳価の適正さが失われることを豪州公正取引委員会は懸念していた。

Koroit 工場の売却先については、この 3 か月間色々な情報と憶測が飛び交っていたが、候補に上がっていた Burra 社や中国企業を含む投資会社などは最終的には Saputo 社との交渉から撤退し、最終的には Bega 社が唯一の交渉先となっていた模様。Koroit 工場は、100 万トンの生乳を処理できる旧 MGC 社最大級の工場であり、ドライヤー4 基で SMP、FCMP、MPC、フォローアップミルク(離乳期以降の粉ミルク)などの製造が可能であり、また乳脂肪製品に関してはバター、AMF の製造ラインを有しており、旧 MGC 社のピークであった 2015 年当時は約 13 万トンの乳製品を製造していた工場となる。その巨大工場の買収金額 2 億 5,000 万豪ドル(205 億円)については、Bega 社は格安価格で購入したという業界関係者の声が多い。2014 年当時、Saputo 社が WCB 社を買収した際には約 5 億 3,000 万豪ドル(434 億 6,000 万円)であり、当時の WCB 社工場は約 80 万トンの生乳を処理する工場。Koroit 工場よりも規模が小さい。また Bega 社は、2017 年 2 月に Tatura 社にあるドライヤー4 基の内ドライヤー1 基と、育児粉乳のドライブレンド(粉末混合)及び缶詰工場を、育児粉乳製造会社である Mead Johnson 社に 2 億豪ドル(164 億円)で売却している。これらの金額を考えると、旧 MGC 社の Koroit 工場の売却金額 2 億 5,000 万豪ドル(205 億円)が非常に割安であることが分かる。

一方で、現在の Koroit 工場の集乳量は激減しており約 30 万トン程度しかなく、工場稼働率は 30%程度の状況になっている。Bega 社が格安にて工場を買収できたとしても、今後集乳量を回復して工場の稼働率を上げるという大きな課題が残る。ACCC は、Koroit 工場の売却後のスムーズな工場運営と工場稼働をさせる為に、Saputo 社には 2020 年 6 月 30 日までは現行の約 30 万トンの生乳について契約酪農家に引き続き Koroit 工場へ配乳する事を保証する事を条件としている。今後 Victoria 州西部の生乳獲得競争は更に激化すると予想される。同エリアには、Saputo グループの WCB 社 Allansford 工場(集乳量約 110 万トン)、Fonterra 社 2 工場(Cobden 工場、Dennington 工場)、Bega 社 Coburg 工場、Bulla 社工場、Camperdown 社工場などが生乳を確保しなくてはならない中で、Bega 社は Koroit 工場の集乳量を 30 万トンから 100 万トンレベルに集乳量を増加させていくと思われ、同エリアの集乳競争が激化すると思われる。各乳業会社の今シーズンのオープニング乳価は積極的な乳価設定としているが、今後 Saputo 社(旧 MGC 社+WCB 社)、Fonterra 社、Bega 社の大手 3 社は更に積極的な乳価ステップアップを提示して酪農家獲得に努力すると予想される。

Bega 社は近年業績が好調であり、会社としての規模も急拡大している。2017 年に豪州国民食であるベジマイト初めピーナッツバター、サラダドレッシングなどの食品ビジネスを米国企業から 4 億 6,000 万豪ドル(377 億 2,000 万円)で買収し豪州国内での知名度とブランド力は格段に強化された。今回の Koroit 工場買収によって豪州酪農業界での存在感も益々大きくなっていき、豪州国内向けのチーズ製造、輸出向けの中心の TATURA 社製品に加えて、今後は Koroit 工場での乳製品原料の輸出販売などに注力していく事になる。日本市場向けの商売においても今後大きな活躍が期待される。

(為替レート AUD= ¥82.00 を使用)

- 豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018年7月26日現在 (mm) -

	7月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	11.2	38.8	49.4	-77.3%
Warmambool (西部)	69.4	71.4	84.9	-18.3%
Bairnsdale (東部)	25.8	14.0	48.4	-46.7%
Albury (北東部)	21.0	83.6	68.0	-69.1%
Melbourne	17.0	30.4	50.9	-66.6%

- ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量、2018年6月 (mm) -

	6月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	121.6	116.6	87.1	+39.6%
Taranaki (北島)	18.2	114.0	132.0	+50.2%
North Canterbury (南島)	58.4	44.6	52.0	+12.3%
Southland (南島)	121.3	71.6	110.0	+10.3%

- 豪州生乳生産量 -

単位:百万リットル

	2018年6月の生乳生産量(前年同月比)	2018年7月～累計(前年同時期比)
NSW	85.2 (-0.6%)	1,131.5 (+0.9%)
Victoria	406.6 (-3.0%)	5,946.3 (+3.0%)
Queensland	28.8 (-11.8%)	392.1 (-6.3%)
South Australia	40.4 (+10.3%)	528.9 (+8.5%)
Western Australia	28.3 (-8.8%)	380.5 (+0.2%)
Tasmania	49.7 (+15.5%)	913.2 (+9.3%)
Australia	639.1 (-1.4%)	9,292.5 (+3.1%)

- ビクトリア(VIC)州の地域別生乳生産量 -

単位:百万リットル

	2018年6月の生乳生産量(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
東部	115.3 (-3.0%)	2,029.6 (+2.6%)
北部	137.9 (+2.4%)	1,893.2 (+8.4%)
西部	153.4 (-7.3%)	2,023.5 (-1.3%)
VIC州全体	406.6 (-3.0%)	5,946.3 (+3.0%)

<メルボルン駐在 Lacto Oceana Pty Ltd 松本>

<欧州情報>

- 深刻な雨不足 -

欧州ではここ 2 ヶ月間以上纏まった雨が降っておらず、牧草及び飼料穀物の発育に深刻な影響が出てきている。各国での牧草の発育状況は 6 月下旬頃には影響が出始めており、牧草は枯れてしまって黄色くなっているものや、例え緑でも茎が徒長(伸び過ぎ)しているものも多く見られた。牧草だけでは十分な栄養を摂取出来ないことから、通常は冬場に給餌するサイレージを使用している酪農家も出てきている。現時点では干ばつにより乳生産量が減少したという話は限定的である。

一方で干ばつの影響による穀物や油糧種子の収穫量減少による影響が懸念されている。EU 農業組織委員会・EU 農業協同組合委員会は 2017 年比で収穫量が 6%落ち込むと警告しており、年末にサイレージ不足と濃厚飼料相場高騰が予想され、生乳生産量への影響を不安視する声も挙がっている。

オランダでは 7 月 28 日・7 月 29 日と短時間ではあるが久しぶりにまとまった量の雨が降り、更に 7 月 31 日も雨の天気予報となっているが、それ以降はまたしばらく晴天が続く予報となっており、引き続き雨不足の状況は解消しそうにない。

- Glanbia Cheese 社 新規工場建設を発表、モザレラチーズ増産へ -

(関連記事 チーズ情報)

7 月 16 日付けプレスリリースにて、Glanbia plc 社と米国 Leprino Foods 社の合弁会社である Glanbia Cheese 社はアイルランド中部 Co Laois 州 Portlaoise に世界規模のモザレラチーズ工場を新たに建設すると発表した。新しい工場の用地は Portlaoise にある Togher 工業団地であることが明らかになっている。総額 1 億 3,000 万ユーロ (169 億円)の投資が見込まれており、アイルランド政府が援助を行うこととなっている。新しい工場の製造能力は年間 4 万 5,000 トンで、約 78 人の常勤を雇用する予定である。また、建設期間中には更に 250 人の雇用創出が見込まれている。

現在このプロジェクトは建設計画段階に入っており、無事建設の承認が得られれば、今年中に建設開始、2020 年には製造開始すると見込まれている。

なお、Portlaoise 工場では重要原材料の大部分を Glanbia Ireland から調達し、ピザ用途を中心に外食業界向けに販売していく予定である。

(Glanbia plc 社)

Glanbia Ireland 社の株式の 40%を保有している、Glanbia グループの持ち株会社としての一面を有する一方、Glanbia plc 社独自に栄養食原料等の付加価値原料の商売なども行う国際的な会社。本社所在地はアイルランドであり、アイルランド・英国で株式上場している。主要株主はアイルランドの酪農家。

(Glanbia Cheese 社)

Glanbia plc と Leprino Foods との合弁会社。2000 年に設立され、英国ウェールズ北西岸の Llangefni と北アイルランド中部の Magheralin に大規模な製造設備を持つ、欧州におけるモザレラチーズ製造の主要拠点の一つ。

(Glanbia Ireland 社)

アイルランドで最大の総合乳業メーカー。現在の株主構成は酪農家が 60%、Glanbia plc が 40%。

(Leprino Foods 社)

米国に本社を構える世界的なチーズ・乳原料の製造販売を行う会社であり世界最大のモザレラチーズ製造者。

(為替レート EUR= ¥130.00 を使用)

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V.吉田>

<米国駐在員情報>

- 6月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると、6月の主要23州の生乳生産量は780万8,800トンで前年同月比1.3%増となった。先月発表の5月の生乳生産量は、前年同月比1.1%増の817万2,000トンへ上方修正された。

主要23州における6月の一頭当たりの平均搾乳量は約891キロで前年同月を約10.4キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来、6月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における7月の平均乳牛頭数は875万頭と発表され、前年同月比1万2,000頭増、前月比での変化はない。

- 2018年5月、過去3番目に多い輸出量 -

2018年5月、米国の乳製品輸出量は過去3番目に多かった。バターと全粉乳の輸出量は倍増し、チーズと飲用乳を除く他の主要乳製品の輸出量は2017年5月の輸出量と比べて二桁増となった。2018年5月では合計19万9,852トン(粉乳、チーズ、バター、ホエイ製品、乳糖)が輸出され前年同月比18%増、輸出額で5億1,200万米ドルとなり前年比微増、2018年1月～5月までの乳製品輸出額は総額24億2,300万ドルとなり、前年同期間比5%増。2018年5月の米国輸出量は乳固形換算で、5月の全米生乳生産量の17.2%に相当し、輸入量は3.3%相当となっている。

【NFDM/SMP】

2018年5月の輸出量は前年同月比20%増の7万461トンとなった。主な輸入国は東南アジア(+43%)、メキシコ(+14%)、パキスタン(+68%)。

【乳糖】

2018年5月の輸出量は3万5,126トンとなり、前年同月比40%増。中国(8,105トン)とニュージーランド(4,368トン)への輸出量は、それぞれ75%増と65%増となった。

【チーズ】

2018年5月の輸出量は2万9,913トンとなり、前年同月比15%減少した。日本は24%減、オーストラリアは54%減だった。これらの減少は、韓国(+12%)および中東/北アフリカ地域(+30%)の輸出量増加により補完されている。

【ホエイパウダー】

2018年5月の輸出量は前年同月比19%増で5万3,171トンとなり、東南アジア(+77%)とメキシコ(+48%)となっている。

【バター】

2018年5月の輸出量は前年同月比121%増の3,955トンとなった。メキシコへの輸出量は134%増加し、603トンであった。

- 5月全粉乳生産量、昨年同月対比3倍となるも今後の行き場に懸念 -

米国農務省(USDA)によると、2018年5月の米国全粉乳生産量は前年同月比より245%増加し、在庫量は前月より82.9%増加した。理由としては①より多くの生乳が全粉乳製造に向けられている為 ②中国からの全粉の引き合いが多いため、としている。

7月3日に実施されたGDTオークションでは全粉乳相場が下落した上に、中国の米国産乳製品に対する報復関税措置により、今後中国から米国への引き合いは減少すると見込まれている。2018年前半の中国向け粉乳輸出は前年比10%近くの増加となっていたものの、現在は一部の中国バイヤーが今後も相場が下がることを期待して傍観しており、需要は冷え込んでいると関係者は言う。

過去12ヶ月間で米国全粉乳生産量の52%が中国に輸出されていることから考えると、米国内の製造者は中国の米国製品に対する関税(25%)の影響として、全粉乳から他製品の製造へシフトする必要がある。さもないと、全粉乳の在庫の山に直面することになってしまい、米国は中国以外の主要顧客を見つけなければ、現在の全粉乳生産量を維持することは難しいと関係者は言う。

- 2018年6月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

カルフォルニア州	1,500,470 トン	+0.5%	(+7,718 トン)
ウィスコンシン州	1,162,694 トン	+1.2%	(+14,074 トン)
ニューヨーク州	577,034 トン	+1.4%	(+7,718 トン)
アイダホ州	576,126 トン	+1.0%	(+5,902 トン)
テキサス州	492,136 トン	+6.6%	(+30,418 トン)
ミシガン州	435,840 トン	+1.3%	(+5,448 トン)
ペンシルバニア州	410,416 トン	-0.2%	(-908 トン)
ミネソタ州	373,188 トン	-0.6%	(-2,270 トン)
ニューメキシコ州	320,524 トン	+1.4%	(+4,540 トン)
ワシントン州	256,510 トン	+2.2%	(+5,448 トン)

- 2018年5月米国産主要乳製品生産量 -

バター	76,232 トン	前年同月比 +2.8%	前月比 -4.2%
チーズ	495,605 トン	前年同月比 +1.4%	前月比 +1.7%
（うちアメリカンタイプチーズ）	200,992 トン	前年同月比 -0.1%	前月比 -0.1%
（うちイタリアンタイプチーズ）	207,562 トン	前年同月比 +1.1%	前月比 +0.4%
NFDM(食用)	72,818 トン	前年同月比 -4.5%	前月比 -2.1%
SMP	22,866 トン	前年同月比 -1.3%	前月比 +1.9%
ホエイパウダー	38,854 トン	前年同月比 +3.2%	前月比 +0.5%
WPC	18,852 トン	前年同月比 -0.2%	前月比 +1.5%
乳糖(食用、餌用)	42,433 トン	前年同月比 -0.2%	前月比 -0.6%

- 2018年5月末米国産主要乳製品在庫量 -

バター	153,818 トン	前年同月比 +8.0%	前月比 +10.0%
チーズ	629,171 トン	前年同月比 +6.0%	前月比 +3.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	365,354 トン	前年同月比 -1.0%	前月比 +3.0%
NFDM(食用)	123,237 トン	前年同月比 -3.1%	前月比 -0.7%
ホエイパウダー	35,835 トン	前年同月比 -7.8%	前月比 +15.2%
WPC	32,230 トン	前年同月比 +4.1%	前月比 -6.3%
乳糖(食用、餌用)	49,758 トン	前年同月比 -16.7%	前月比 -0.6%

- 2018年6月末バター、チーズ在庫量 -

バター	152,728 トン	前年同月比 +8.0%	前月比 -1.0%
チーズ	632,210 トン	前年同月比 +6.0%	前月比 +1.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	364,691 トン	前年同月比 -1.0%	前月比 ±0.0%

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、高野＞

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weekly Times
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。

